千葉市農政センター
リニューアルプラン（概要版）

千葉市経済農政局農政部
令和４年５月２７日公表

説明項目

1 農政センターのリニューアルの方向性

2 農政センターのミッション・ビジョン・バリュー策定

3 リニューアル全体計画及び事業実施工程

4 スマート農業実証フィールド（実証試験の座組）

5 栽培試験事業/新たな生産モデルの創出（施設栽培・露地栽培）

6 農業者研修事業/新規就農者アドバンス研修

7 農業者研修事業/農業技師の技術力・指導力の強化

8 検討委員会について

1　農政センターのリニューアルの方向性

－方向性の概要－

〇農業分野の技術革新やグローバル化など農業情勢の大きな変化により、農政センターの担うべき役割を見直し

〇本市農業の成長産業化に資するため、「スマート農業実証フィールド化」「栽培試験・研修の強化」「農業技師の指導力の強化」の3つの方向性でリニューアルプランを策定、機能を強化

◆これまでの農政センターの役割

園芸振興のための技術普及の拠点

概況

- これまでの農政センターは野菜等園芸産地の育成を役割とし、市内農業の生産振興に重点
- 施設の老朽化や農政センター職員の減少により、年々組織的な指導力は低下

機能・役割

- 野菜・花き産地育成のための種苗の供給
- 野菜の栽培試験による技術指導の充実
- 担い手確保のための新規就農者研修の実施

取り巻く環境・周囲の声

- 地域農業者の声：農政センターは人が少なくなって継続した指導力が低下しており、不満
- 企業の声：行政のフィールドで新技術実証ができることは魅力！ぜひ連携したい！
- 社会情勢の変化：
  ・コロナ禍により、都市住民の地域農業への関心が向上
  ・オンラインの販売サービスの急増等、消費行動が多様化

◆リニューアル後の農政センターの役割

「人と技」を活かした都市農業の拠点

注力品目選定・種苗供給力の強化

- マーケットインの発想に立ち、千葉市内外での販売戦略を重視した種苗供給や新たな品目を検討
- イチゴ生産農家拡大に向けた育苗ハウスの増設

有望なスマート技術の実証・新たな栽培モデル確立等

- 企業と連携し、スマート技術をはじめとした新技術の実証・確立を行う（R3年度24社ヒアリング実施）
- SDGｓ対応型イチゴ栽培施設を整備実証
- 有機農業の実証展示や本市主要品目の品種比較を実施し、農業者が集まる場を設置
- 農業技師の拡充とジョブローテーションによる知識や経験の平準化を図るとともに、データ活用できる農業技師を育成し、農家に寄り添った営農指導を強化

人材育成・研修の強化

- 都市農業に必要不可欠な経営戦略を有し、新たな知見の導入を意欲的に行う、千葉市農業の次世代を担う人材を育成（アドバンス研修）

2 農政センターのミッション・ビジョン・バリュー策定

リニューアル後も千葉市農業にとって農政センターが貢献し続ける拠点であるために
“在り方“から見つめ直し、ミッション・ビジョン・バリューを策定することとした。

Mission　【事業理念／存在意義】

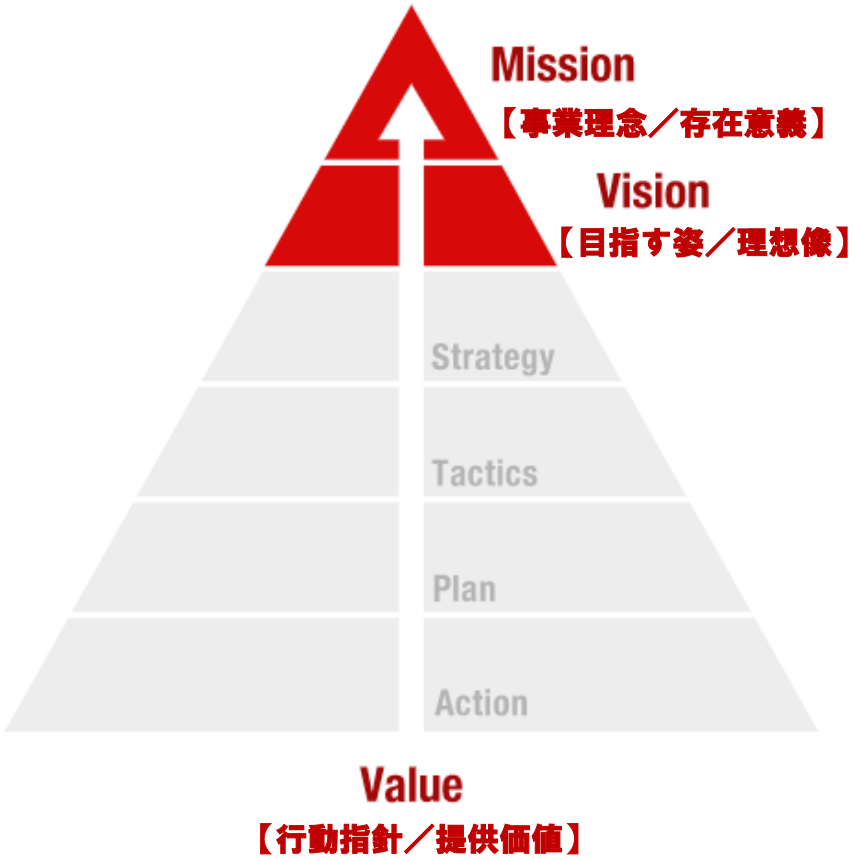
農政センター・農業技師は何のために存在するの
組織が存在する目的（何のために活動するのか？

Vision　【目指す姿／理想像】

千葉市（農業や市民生活）や千葉市農政センター
目指す将来の姿（１０年後の理想像）

Value　【行動指針／提供価値】

組織内で共有する価値観
（日々どのように行動するか？　農業者に提供する価値は？）



①ミッション・ビジョン・バリュー策定ワークショップの実施

1．組織のらしさ → 2．提供価値 → 3．重点的に支援したい事業者 → 4．社会の期待

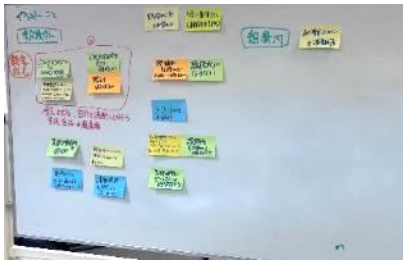
技師・職員が複数回のワークショップを通して自身の価値観・想いに向き合って創造

メモリアルワーク

農業技師がモチベーションの源泉となる、これまでに最も心に残った仕事を振り返り、大切にしている価値観を抽出

あえてやっていること／あえてやらないこと

農業技師が普段の業務であえてやっていること、やらないことを言語化し、農業者と接する際の大切にしている価値観を抽出



好かれたい相手／距離があっても良い相手

農政センターが担う機能や役割やスタンスを整理するため、支援する事業者像を抽出

千葉市農業・農政センターが抱える課題の考察

農政センターが取り組むべきこと、向き合うべきことを見出すため、千葉市農業や農政センターの現状課題を抽出

②農政センター　バリュー

農政センター Value

一体
農家、市民、同僚が
一体となり進める

寄り添い
農業者に寄り添い
農業者の目線で接する

根気
未来を見据え
あきらめず、根気強く

楽しむ
目の前の仕事の
「楽しい！」をつくる

挑戦
創造性とチャレンジ精神を
持ち一歩前を進もう

現場
地域・農家の現場を
知ることから始まる

主体
常に主体は
農業者である

迅速
地域・農家の困りごとに
迅速な対応を

正確
情報の真相を理解し
正確な情報を届ける

③農政センター　ミッション

Mission

農業のすぐそばで、「人と技」を活かし
農にまつわる全ての人に貢献します。

〇農業生産の中で様々な困りごとが発生しても、**農政センターはいつも一番近くにいて、すぐに現場に駆け付け、相談、対応する存在になります。**

〇農政センターは、**農業生産に必要な技術と、それを使える、伝える人材を確保、育成します。**

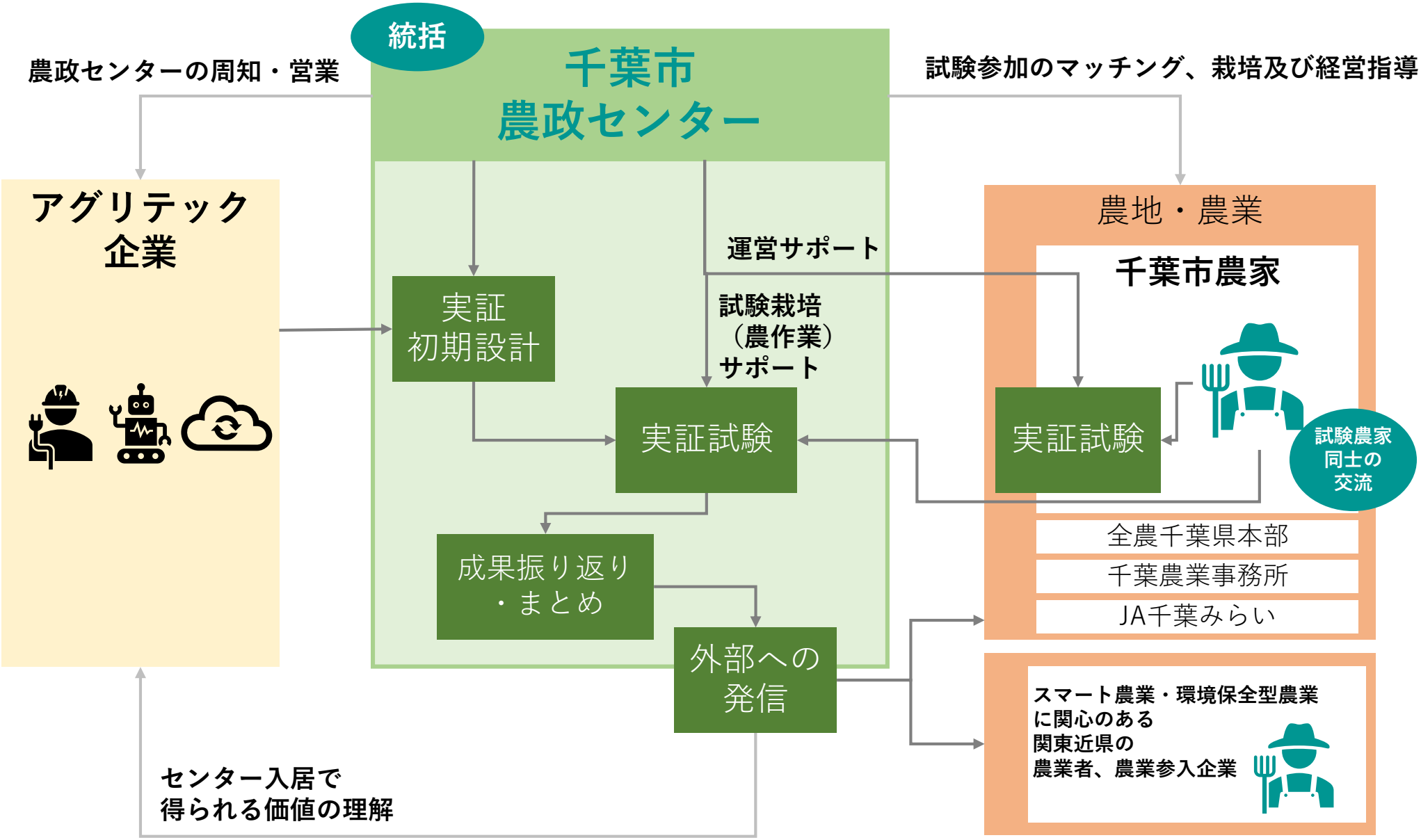
〇農業者はもとより、市民をはじめとした消費者、農産物を販売する者、加工する者、技術を開発する者など**農業分野に関わる全ての者が笑顔になることに貢献します。**

3　リニューアル全体計画及び事業実施工程

		R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
計画策定	千葉市農業基本計画		策定	実施				
	リニューアルプラン	策定	位置づけ					
エリア別事業	スマート実証フィールド	実証実験	拡充					
	栽培試験		SDGｓ対応型施設園芸	イチゴ		トマト		
			有機農業					
			検討					
	研修	アドバンス研修						
	種苗供給		新品目検討					
施設整備	イチゴ用ハウス		整備					
	トマト用ハウス		検討					
技師の育成	データ活用型指導力	研修						
		指導実践						
	指導力強化		採用育成					

実施決定事業　検討事業

4 スマート農業実証フィールド（実証試験の座組）



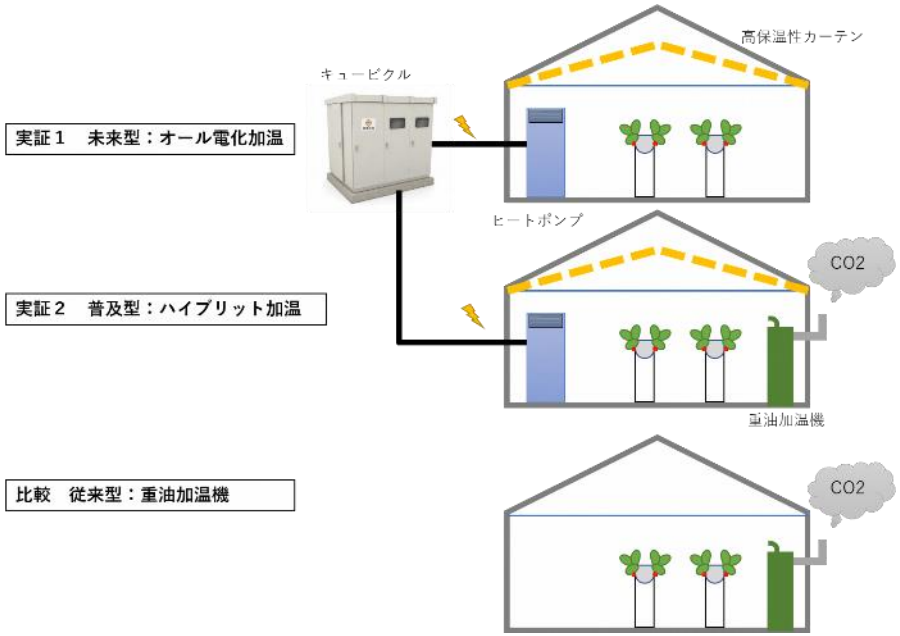
5　栽培試験事業/新たな生産モデルの創出｜施設栽培

施設栽培における取り組み

農業生産でのSDGs推進、農政センターが保有している資源活用の２つの観点で、千葉市農業の発展に貢献する新たな生産モデル創出に取り組む。
施設栽培においては、「ハイブリッド式加温ハウスでのイチゴ栽培」「ソーラーシェアリングでのトマト栽培」の２つの技術モデルを検証する。

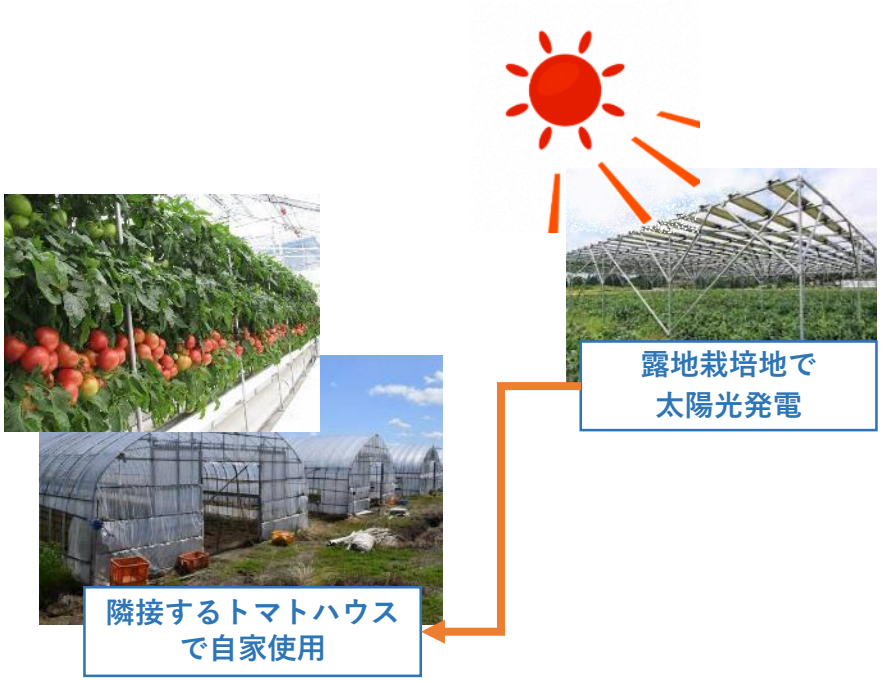
ハイブリッド式加温ハウスでのイチゴ栽培

次世代施設園芸における環境配慮型栽培モデル創出に向けた実証。
燃油使用量削減とCO2排出削減をテーマとし、かつ農業経営の収益性を損なわないモデルについて、農政センターにて最適モデルを検討する。
環境配慮型だが事例の少ないオール電化加温と、低コストだが環境負荷の高い従来型重油加温の間をとる「ハイブリッド加温」により、千葉市農業者が活用できるモデルを見出す。



ソーラーシェアリングでのトマト栽培

次世代施設園芸における収益向上栽培モデル創出に向けた実証。
ハウス栽培で使用する電力を、併設した露地圃場に営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）を設置するモデルを検討する。
露地栽培地に太陽光発電パネルを設置し発電し、越冬型トマト栽培ハウスでの環境制御盤・カーテン・LED等の電力消費に使用する。
同時に、千葉市において太陽光発電パネル下でも栽培でき、収量が確保できる、千葉市農業者が活用できるモデルを見出す。



5　栽培試験事業/新たな生産モデルの創出｜露地栽培

露地栽培における取り組み

農業生産でのSDGs推進、農政センターが保有している資源活用の２つの観点で、千葉市農業の発展に貢献する新たな生産モデル創出に取り組む。
露地栽培においては、「有望品目の新品種・栽培実証」「有機農業」に取り組む。

有望品種の栽培実証

市の主要品目であるニンジン、市内で栽培面積の多い落花生について、品種比較、県の新品種の試験栽培、新技術検証などを行う。

＜市の主要品目　**にんじん**＞

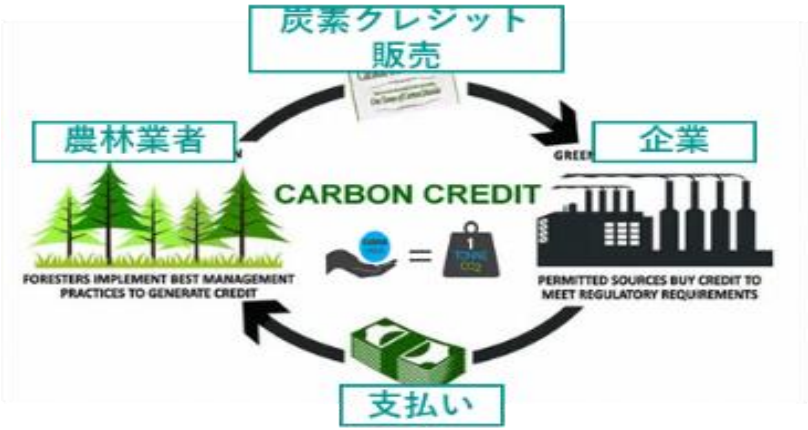
＜市内栽培面積の大きい　**落花生**＞

有機農業

今後拡大の進む有機農業にて
市内農業者が新たに取り組む際に参考にできる情報を農政センターでの試験栽培で獲得する。

生産面では、生産の安定性、必要な労力の検証。

経営面では、必要なコスト、農業者同士の情報交換を可能にするグループ組成、見込める販路、炭素クレジット販売の手法などの検証。



6　農業者研修事業/新規就農者アドバンス研修

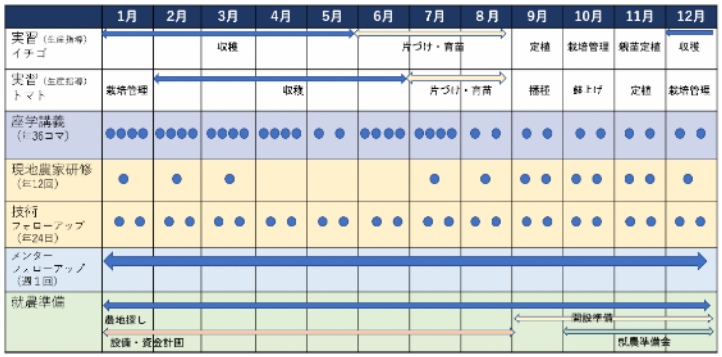
『新規就農アドバンス研修』をスタート

農業技術のみならず、農業経営、また販売も含めて実践力まで養う１年間の多岐にわたる研修を通し、千葉市でトマトもしくはイチゴの生産で独立就農し、自身の収益をしっかり確保できる農業者を育成するだけでなく、将来的に地域を牽引できる農業者の育成を行う。
令和4年1月より取り組み開始。

農政センターでの1年制の模擬経営研修

研修は、１年間（令和４年１月～１２月）のプログラムを展開し、スムーズな就農を目指す。
様々な品種がある本市の立地を活かし農業として稼ぐことが期待できる品目のイチゴもしくはトマトでの新規就農者を育成する。
農政センター内におけるインキュベーションファームでの模擬経営と、技術や経営を軸とした講義による専門知識など、営農実践に役立つノウハウを習得させ、地域を牽引する農業者育成を目指す。

**ア 農政センターの温室・ビニールハウスで、
　イチゴやトマトの管理、収穫など栽培実習**
イ 座学講座（経営・技術）、農家研修、技術フォローなど
ウ 就農準備支援（就農計画作成、農地探し等）



座学と実践を意欲有る希望者に実施

■ 千葉市において地域を牽引し得る農業者候補を選定
　① 千葉市への就農意欲
　　（研修後千葉市にて就農する意思があるか）
　② 目標意識
　　（明確な目標を持っているか）
　③ 実現可能性
　　（自己の現状に照らして、目標設定が妥当なものであるか）
　④ 農業への思い
　　（どのような農業をしていきたいか／地域貢献意欲が高いか）

■ 総受講時間 1,200 時間以上
■ カリキュラム ・座学講義 36 コマ
　（農業技術 12 時間／ 農業経営 12 時間／ 実践力講習 12 時間）
■ その他技術実習
■ 栽培実習
　（圃場／ 地域農家研修／ 機械講習／ 振返りを含む）

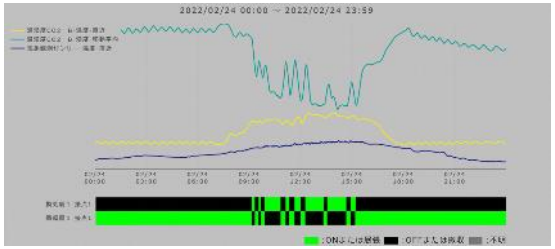
7　農業者研修事業/農業技師の技術力・指導力の強化

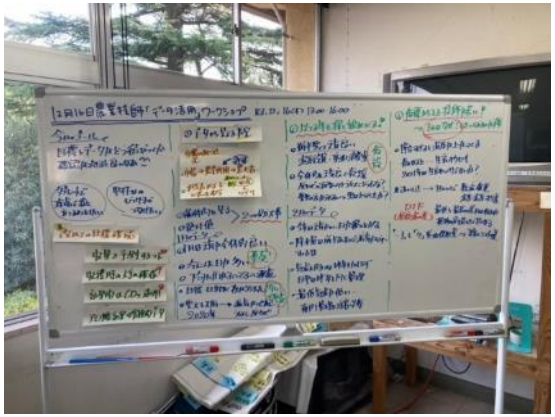
データ活用による経営力強化を支援する取り組み

データを活用した農業経営数値の見える化を促進し、農業者が迅速な経営判断を行えるよう支援する。
農業者に『データを活用した経営分析の手法を教示する』サービスは現在類がなく、自治体では全国初。

データ活用型の農業指導の実践

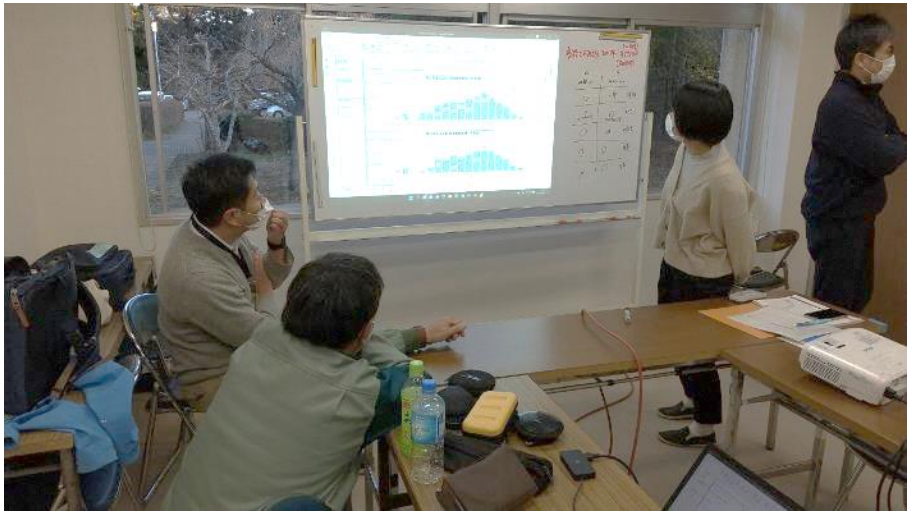
R3年度より、データを駆使した農業経営の支援準備を開始。
スマート農業実証により得られた環境モニタリングデータに加え、農業データを総合的に見える化した経営サポートを実施。
これまでは気象や生育調査のデータを活用した生産技術の改善にとどまっていたが、**栽培環境モニタリングデータや経営データを総合的に活用することで、経営まで指導の範囲を広げる。**





経営指導まで行える技師の育成

データ活用技術とは、経営学の手法を用い農業者の現状やビジョンを把握し、生産活動から出荷販売までの中で得られた各種データをもとに課題を分析、仮説を立てながら改善戦略を立てること。
迅速な経営判断の強化を支援するには、農業技師がそのスキルを身につける必要があるため、同様のサービスを展開しているコンサル会社から指導を受ける形で農業技師育成の取組を開始している。



8　検討委員会について

計３回の検討委員会を開催。事業の進捗共有と関係者の意見聴取を行うことで多様な視点を取り入れ、農政センターの取組みに磨きをかける。

検討委員会の目的

農政センターは、千葉市農業の発展を担う重要な機能である。農政センターの方針策定は、多様な視点を取り入れる必要がある。千葉市農業に関わる関係者の意見を聴取する機会として開催する

主な議題

第１回	第２回	第３回
10月26日	**2月8日**	**３月15日**
1. 農政センターのリニューアル構想 2. 令和４年度の施設改修計画 3. アグリテック企業／農業者への要望調査の中間報告 4. リニューアルに対する要望聴取・意見交換	1. アグリテック企業／農業者への要望調査結果 2. 有望品目に関する調査結果 3. 各エリアの事業計画 ① 企業利用エリア ② 栽培試験・研修エリア ③ 種苗供給エリア	1. 各エリアの事業計画 ① 企業利用エリア ② 栽培試験・研修エリア ③ 種苗供給エリア 2. 農政センターのミッション・ビジョン・バリュー 3. リニューアル成功に向けた意見交換

検討委員メンバー

検討委員の概要

- 設置目的
  - 本市の都市農業の将来を見据え、農政センターリニューアル方針、機能について意見を聴取し、ともにより良い計画を検討するため
- 委員

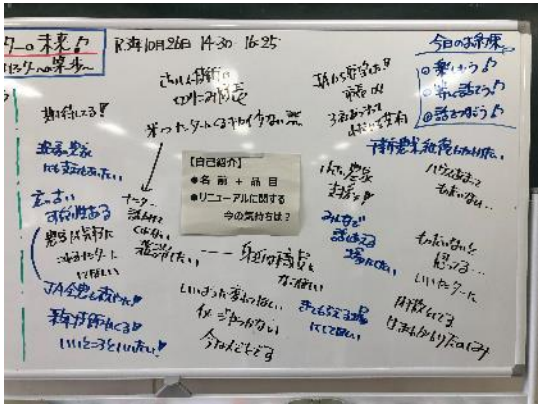
	業　　種	法人・団体名称	委　　員	栽培品目
1	農業者	サンタファーム	篠崎　俊介	イチゴ観光農園
2	農業者	ヒキラ農産	加藤　伸一	水　稲
3	農業者	ベジフルファーム	加藤　遼亮	コマツナ
4	農業者	東部地区出荷組合連合会　会長	高橋　義男	ニンジン等
5	農業者	大塚秀農園	大塚　秀行	大玉トマト等
6	農業者	エーアト・ベーレ	田中　幸男	イチゴ観光農園等
7	農業者	しげファーム	山本　茂晴	有機農業多品目
8	農業者	さわの森農園	澤守　久美子	イチゴ・野菜類
9	関係機関	JA千葉みらい　　常務理事	加藤　康幸	連携機関
10	関係機関	千葉農業事務所　次長	豊田　祐輔	連携機関
11	関係機関	千葉県総合農業支援センター　監理役	加藤　浩生	連携機関

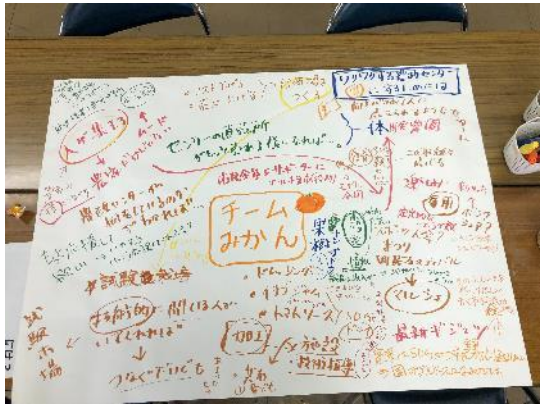
第１回検討委員会

第１回検討委員会の概要

- 目的
  - リニューアル方針を説明したうえで、各委員が思う農政センターに期待すること、欲しい機能についてより多くの意見を出してもらう
- 開催日時・会場
  - 日時　10月26日（火）13時30分～16時30分
  - 会場　農林業センター2階会議室（農政センター内）
- 参加者
  - 検討委員、農政センター表谷、森田、高須、中田、橘薗、柴田、鶴岡、松﨑、佐々木
- 内容

時間	内容
13:30	開会・挨拶
13：35	本日の予定説明・委員紹介
13：40	・機能強化リニューアル方針説明 ・計画策定進捗報告
13：50	外に移動
13：55～14：20	場内見学
14：30	意見交換ワークショップ
16：20	今後のスケジュールについて説明
16：30	閉会

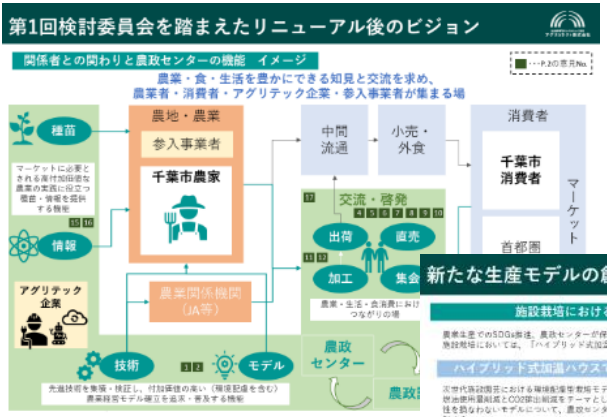


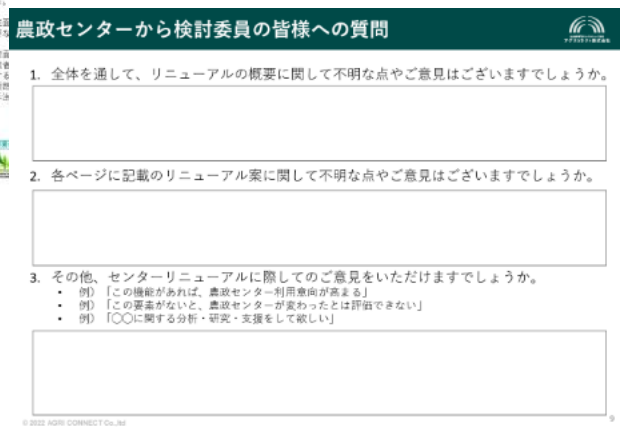


第２回検討委員会

第２回検討委員会の概要

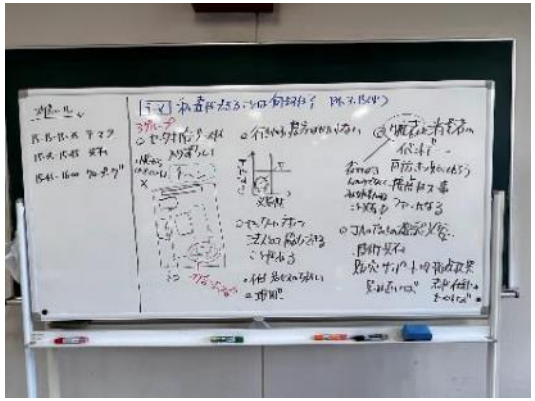
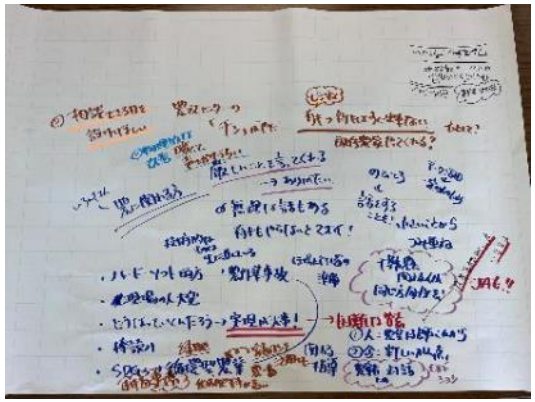
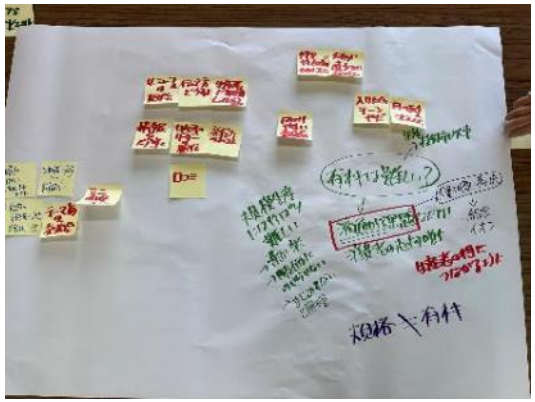
- 目的
  - リニューアル方針として検討してきた、アグリテック実証、新たな生産モデル（施設・露地）、リニューアル後のビジョン等を説明したうえで、各委員が思う農政センターに期待すること、欲しい機能についてより多くの意見を聴取
- 開催日時・会場
  - 日時　2月8日（火）
  - 会場　－
- 参加者
  - 書面開催(新型コロナウイルスの感染状況を配慮)
- 内容
  - リニューアル方針の資料を2月8日に配布
  - その後農業技師により各検討委員に電話またはメールにて意見を聴取





第３回検討委員会

第3回検討委員会の概要

- 目的
  - 検討したリニューアル内容の説明・報告を行った上で、リニューアル成功に向けて必要なこと、各自が出来ることをワークショップ形式で意見交換する
- 開催日時・会場
  - 日時　3月15日（火）14時00分～16時00分
  - 会場　農林業センター2階会議室（農政センター内）
- 参加者
  - 検討委員、農政センター表谷、森田、高須、中田、橘薗、柴田、鶴岡、松﨑、佐々木
- 内容

時間	内容
14：00	開会・挨拶
14：05	本日の予定説明
14：10	・検討したリニューアル内容の説明 ・意見交換ワークショップ
16：00	閉会